

13. 東京都町田市



東京における里山と宿場町を活かしたまちづくり [東京都町田市]

- 町田市北部に位置する小野路町は、鎌倉時代、幕府と武蔵国の国府である府中を結ぶ道が小野路を抜けていたことから宿場として栄え、幕末頃には街道沿いに計40件の宿が連なっていた。屋敷の裏が急な崖であることから、後年も周辺が宅地化されず竹林のままとなっており、現在でも幕末の宿の形態が保存されている。
- 都内でも貴重な里山景観の保全・活用や歴史的沿道景観の再現等を市民が中心となって行うことにより来訪者数が増加している。

市民による里山の保全・活用

- 里山景観が残る「奈良ばい谷戸」の環境を保全するため、平成17年度より支援者を市民公募するとともに、伝統農法を用いた環境再生をテーマとした里山保全活動を開始。
- 平成21年度に公募市民が中心となってNPO法人を結成し、市民協働事業として里山の保全活動を継続的に実施。



奈良ばい谷戸における活動と景観

<取組内容>

- ・耕作放棄地の水田整備
- ・樹林地の除草刈り
- ・水路、溜池の整備 等

官民連携による歴史的沿道景観の再現

- 趣ある宿場町を再現するため、沿道民家の板塀の改修を支援し、連続性あるまちなみ景観を創出。
- 道路脇の水路を自然石張とし改修するとともに、季節の植物を楽しめる植栽柵を水路内に設置。



水路の改修



板塀の設置



再現された歴史的な沿道景観

<板塀設置に対する補助制度>

補助額 新設：9万円/m又は事業費の80%の小さい方
改修：3万円/m又は事業費の60%の小さい方
実施延長 約300m

観光拠点・憩い空間の創出

- 宿通りの旧旅籠屋の主屋や長屋門、製茶場を既存の姿を活かし改修・増築するとともに、土蔵や味噌蔵の曳家により移設することで、地域のまち並みと調和する歴史を感じられる空間を創出。
- 現在は地域住民によって「小野路宿里山交流館」として運営され、周辺の里山散策の休憩場所だけでなく、様々な企画・展示の開催や、地粉を使ったうどんやコロッケ等飲食も楽しめる観光拠点となっている。

交流館（増築・改修前）



（改修・増築後）



館内では地元産野菜などの販売のほか、季節に合わせて様々なイベントを実施。

施策の効果

小野路宿里山交流館の来館者数（人）





14. 神奈川県小田原市



屋外広告物の改善による駅前顔づくり [神奈川県小田原市]

- 小田原市は、江戸時代に東海道屈指の宿場町として発展し、現在のまちの礎が形づくられた。その後、鉄道や道路の交通の利便性などを背景として都市化が進み、神奈川県西部地域の中核都市として発展してきた。
- 都市化により失われつつあった往時のまちなみの再生等の多様な取組により、住民の満足度が向上している。

屋外広告物の改善

- 市街地において大きな景観の構成要素となる広告物について、市が屋外広告物条例を制定し、広告物の地色や形状・面積を規制するとともに、企業への個別訪問や早期改善促進補助事業を実施し短期間で景観が改善。



市の玄関口であるJR小田原駅前では短期間で屋外広告物が改善

【取組の概要】

- 屋外広告物条例の概要
(小田原駅周辺地区)

色彩は、高彩度の色彩の使用は避け、当該建築物の外壁等の色彩との一体的な色相や彩度を用いる。形状や面積は、適切な規制・誘導を図るものとする。

- 早期改善促進補助事業

条例制定を受け、企業等に対し10年以内の屋外広告物設置状況の改善を依頼する一方、当該条例制定後5ヶ月以内に改善する場合には市で助成を行うなど早期改善策を実施。
(補助率1/3、上限30万円)

まちなか緑化の推進

- 駅前の商店街と協力し、沿道の緑化を推進。



店舗外観の修景

- 駅前の商業施設や店舗など、にぎわいの中にも歴史が感じられる意匠（軒や庇、仕上など）へ外観を修景。
- 市は、改修費用の一部を補助。



- ・庇、暖簾の設置
- ・看板、壁面の修景
(かまぼこ店)



- 建物前面のみ改修
(そば店)

補助制度の概要

- ・景観計画に定める重点区域で実施される建造物の修景事業に対し補助。補助率：1/3(H28まで1/5) 上限：100万円
- ・補助実績：53件 (H29末時点)

ポケットパークの整備

- 景観を阻害するビルを除却し、憩いの場となるポケットパークを整備。
- これにより駅前空間における開放感を創出。



施策の効果





15. 新潟県南魚沼市



雪国の建築様式を活かした景観まちづくり [新潟県南魚沼市]

- 牧之通り地区は、旧三国街道沿いの宿場町として発展し、伝統的工艺品である越後上布しおざわつむぎや塩沢紬などの織物の産地として知られる。また全国有数の豪雪地であり、街道沿いの商店街の建物は町家様式で、雁木と呼ばれる雪よけの屋根を備えている。
- このような雪国特有の建築様式を活かしたまちづくりを行うことで観光客の増加や外部評価の高まりといった効果が見られる。

建築協定に基づく雁木の復元・外観の統一

- 街路事業により商店街の建替が伴うため、これを契機として地域住民がまちなみ景観の重要性に気づき、建築協定を検討・締結。商店街は建替にあわせセットバックし、伝統的な雪国建築様式である雁木の復元。



〈建築協定の概要〉

- ・和風、歴史、雪国、街道をイメージする建築外観を基本とする
- ・外観の色彩は、屋根は黒系色、外観は白、黒、茶系色とする
- ・道路に面して幅2mの雁木を設置する。等



建造物の所有者がそれぞれの負担により雁木を整備

道路における無電柱化と美装化

- 建築物と一体的に無電柱化及び美装化し、景観を改善

【無電柱化】

遠くに見える山々や空を借景とするため電線共同溝により無電柱化。



【舗装の美装化】

まちなみに合わせ石畳舗装を整備。縁石は消雪パイプの地下水による変色を想定した赤茶色の石を採用。



おもてなしの取り組み

- 民間団体により、季節ごとに自宅にある雛人形や伝統織物等を飾るイベントを開催。



家に眠っていた雛人形を展示



越後上布や塩沢紬などを展示

施策の効果



【外部評価の高まり】

景観に関する表彰を受け外部からの評価が高まっている。

- 平成23年度
都市景観大賞 国土交通大臣賞（都市空間部門）受賞
- 平成27年度
アジア都市景観賞 受賞



16. 富山県南砺市

八日野

伝統産業と一体となった住民主体の景観まちづくり [富山県南砺市]

- 南砺市井波地区は、600年以上の歴史を持つ古刹・瑞泉寺の門前として栄え、その雰囲気を残した歴史的な家屋が立ち並び、伝統産業である木彫刻を生かしたまちづくりが行われ、風情あるまちなみ景観が形成されている。
- このような歴史的まちなみを住民が主体となって保全・再生することで、観光客の増加等の効果がみられる。

瑞泉寺参道の整備

- 昭和59～61年度に、瑞泉寺の参道である八日町通りの石畳舗装、街路灯の整備を実施。
- 整備を契機に、住民の景観づくりに対する意識が高まり、その後の住民協定等の景観づくりへの取組みに繋がった。



石畳や街路灯の整備により、瑞泉寺の参道である雰囲気を感じられるまちなみとなった。

県景観条例による景観づくり住民協定

- 市では、県景観条例に基づく「景観づくり住民協定」により、住民自ら定めたルールに基づく景観づくりを推進しており、平成17年に県内で初めて八日町において、翌年に上新町、平成24年に三日町において協定が締結された。
- 住民協定の締結事業や締結後の修景事業に対して、県及び市が費用の一部を補助。

【住民協定の締結事業】



説明会の実施

〈建築物に関する協定内容(八日町)〉

- ・建築物はまちなみと調和のとれたまとまりのあるデザインとする。なお屋根は勾配のあるものとし黒又はグレー系の日本瓦とする。
- ・建築物の外壁の色彩は出来るだけ黒又は茶系統又は白色とする。
- ・木製のドアや引き戸の活用をする。
- ・看板は木製とし、木彫りの表札を設置する。

【修景事業】



木格子を取入れた外装改修



室外機の目隠し



木彫看板の設置

〈景観づくり事業補助制度〉

- ・住民協定の締結及び運営の為にを行う事業 補助率：2/3 限度額：40万円
- ・協定地区内で住民が修景の為にを行う事業 補助率：2/3 限度額：400万円

【協定毎の魅力づくり】

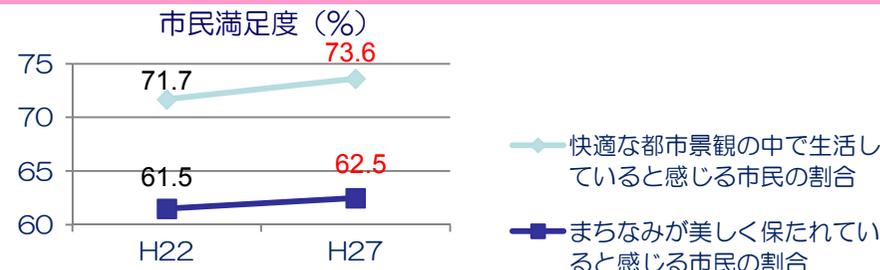


大暖簾を各家屋に設置(上新町)



行燈型の表札(三日町)

施策の効果





17. 石川県七尾市



温泉情緒が感じられる地元主体の景観まちづくり [石川県七尾市]

- 七尾市の和倉温泉地区は、七尾湾沿いを通る幹線道路を景観形成の軸として、沿道には風格ある旅館が建ち並び、波穏やかな七尾湾の美しい自然景観を望むことができる。
- まちの中心部にある源泉公園や湯元広場といった湯けむりが漂うこの地区では、住民が主体となった景観協定の締結等により温泉情緒あふれる景観まちづくりが進められ観光客が増加している。

温泉情緒が感じられるルールづくり

- 平成19年能登半島地震以降、当該地域の宿泊数が落ち込み、経営者や住民は危機感を感じたことから、地元が中心となり、温泉情緒が感じられるまちなみ整備を優先することの機運が高まって景観協定策定の検討が始まった。
- 住民による景観協定運営委員会が発足し、地権者との合意形成に努め、発足から約6年後の平成26年に、面積22ha、協定参加者209名の大規模な景観協定を締結。
- 協定締結に至るまで、景観協定委員（地元住民）が粘り強く住民説明会や自宅訪問を実施、行政は事務的なサポートを行い、官民連携で進めた。

景観協定の概要

- ・和風の要素を取り入れた外観（瓦、庇、格子）とする。
 - ・壁面後退距離は、道路境界から1.0m以内とする。
 - ・無彩色、茶系統の暖かみのある落ち着いた色彩とする。
 - ・建築物の新築等する場合は、予め景観協定運営委員会の承認を受けなければならない。
- （委員会による承認実績：H26：4件、H27：5件、H28：7件）



協定に基づいたデザインとなっている飲食店



屋外広告物の集約

- 観光案内標識等の集約を促進し、景観に配慮



街中で温泉が楽しめる拠点施設の整備

- 日帰り温泉・観光案内の機能を有する観光交流センター「総湯館」をまちなかの回遊拠点とし、周辺に温泉を楽しめる様々な施設を整備。



足湯施設・飲泉所新設

総湯館に併設されている無料の足湯・飲泉施設。



飲める温泉施設

温泉湯が出ており飲用可能

温泉を感じる公共空間の整備

- 自然石によるデザイン舗装、街路灯を行燈風に改修、公園の再整備、温泉熱を活用したベンチ・手湯等を整備。



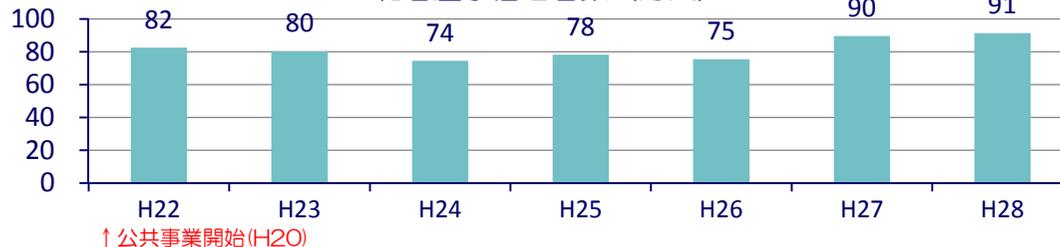
無電柱化、石張舗装、歩道整備



湯けむりをデザインした街路灯

施策の効果

和倉温泉宿泊者数（万人）





18. 福井県坂井市



三国祭りを中心とした住民主体のまちづくり [福井県坂井市]

- 日本海に面する三国湊町は、^{くすりゅうがわ}九頭竜川やその支川の^{あすわがわ}足羽川などを使った水運による物流の拠点として発展した港町である。
- 現在でも、格子戸が連なる町家、豪商の面影が残る歴史的建造物など、交易により発展した情緒あるまちなみが残り、このような景観の保全・創出やイベントの開催等により、観光客数が増加傾向となっている。

三国祭りを演出するまちなみ整備

- 北陸三大祭りである「三国祭り」の際に山車が練り歩くルートにおいて、舗装を石畳にするとともに沿道の歴史的建造物を修景。
- 整備されたまちなみにおいて祭りが行われ、活気と賑わいが生み出される。



舗装の石畳化



山車小屋の修景



舗装の石畳化



山車小屋の修景



北陸三大祭りである「三国祭り」



協定に基づく一般住宅の外観修景

- 湊町地区特定景観計画区域内では、市と地区が景観づくり協定を締結。市は、地区内の一般住宅の外観修景に対し助成。



【協定の概要】

- 建築物の高さ及び壁面の位置は、できる限り隣接する建築物に揃える。後退する場合は、門・塀等を設置する。
- 歴史的景観や自然環境と調和するよう、落ち着いた色彩を基調とする。
- 形態は、和風を基本とし、歴史的景観やまちなみの連続性、地区、界隈の景観特性に配慮した意匠とする。

【助成制度の概要】

- 補助対象：地区の協定に準拠するよう行う外観修景工事
- 補助率：1/3（上限150万円）
- 実施件数：66件（H28時点）

空き家等の活用

- 地元のまちづくり団体が空き家のリノベーションを進めており、これまでにゲストハウスや文学資料館等が整備されている。（活用実績：H26：2件、H27：4件）



くすり屋



ゲストハウス「詰所三国」



蔵



文学資料館「マチノクラ」

- 地元住民や個人店主等から成るまちづくり団体「三國會所」は、空き家の再生とそれによる賑わいや雇用を生み出すことを目的として空き家のリノベーションを進めている。
- 空き家オーナーからの申出があり、かつ古民家や土蔵などリノベーションをすることでまちなみ景観が向上する物件を対象として整備している。

施策の効果





19. 山梨県甲州市



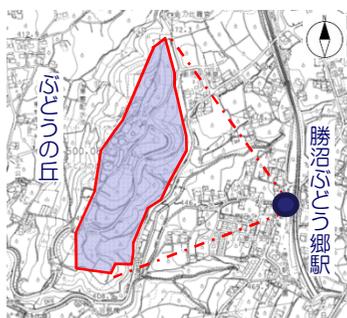
美しいぶどう郷を創出する官民連携の景観形成 [山梨県甲州市]

- 日本のぶどうとワインの発祥地である勝沼は、ぶどう1300年、ワイン140年の歴史と文化が息づく自然豊かな地域であり、多くのぶどう園やワイナリーが棟を連ね、明治期のワイン醸造場やセラーなど近代化遺産が点在している。
- ぶどうの丘の眺望景観の保全やイベントの開催により、住民や企業の景観に対する意識が向上し、相乗効果が見られている。

ぶどうの丘の眺望整備

- 勝沼ぶどう郷駅から「ぶどうの丘」への眺望範囲において、地域住民と行政の協働でガードレールの塗替えや、ぶどう畑に使用されている防風・防鳥ネットの張替えを実施。

位置図



※甲州ブラウン
甲州市にふさわしい建物等を、ワークショップなどを通して市民とともに検討し、甲州市が定めた独自の景観色。ぶどうの幹との近似色となっている。

ガードレールの塗替え



※色彩：甲州ブラウン【10YR4/1】

防風・防鳥ネットの張替え



※色彩：自然色ネット【10YR3/1】



修景に対する助成

- 自然色ネット・シート、甲州ブラウン色のペンキ等の購入に対して補助を実施。(補助率1/2 上限3万円)

景観セミナーの開催

- 市では、景観や色彩、まちづくりの専門家呼びセミナーを開催。
- 多くの市民が参加し、景観への関心が向上している。

フットパスツアーの開催

- 市民団体により、歩きながら勝沼の自然景観を楽しむガイドツアーを実施。



旧勝沼町の市民が中心となって地域活性化策を検討し、ぶどう畑や盆地の景観を楽しみながら、近代産業遺産や史跡等を結ぶフットパスプランを考案。2007年に「勝沼フットパスの会」が発足され、勝沼フットパスガイドツアーを開催。

ワインツーリズムの開催

- 民間事業者等により、ワイナリーを巡り、つくり手と触れ合いながらワインを味わうイベントを開催。



ぶどう農家、ワイナリー、飲食店、NPO、行政等が協力し2008年より開催。ワイナリーを巡る循環バスを利用して、参加者自らが巡回プランを立てることができる。イベントには、東京を中心に2,000人以上の人々が訪れる。

施策の効果

- 景観整備やイベント開催による住民意識向上により、事業者が工場を新築する際についても、自主的に勝沼の自然景観に調和した外観とするなど、効果が波及。





20. 長野県長野市

善光寺周辺の歩きたくなる景観まちづくり [長野県長野市]

- 善光寺門前町は旧北国脇往還の宿場町であって、現在でも漆喰で塗り固めた土蔵造りの店舗が残る。また、参道周辺の通り沿いには、39の宿坊が立ち並んでおり、当時のまちなみが現在にも残る。
- このような景観を活かし、街歩きを促進するまちづくりを面的に進めたことにより、街中の歩行者数が増加傾向にある。

善光寺表参道の歩行者優先と活用を促進する道路の整備

- 善光寺表参道は県道であったが、市が「まちなかの回遊性の向上」に取り組んでいたことから、県との協議を経て市道に移管。
- 社会実験を経て、車道幅を狭め歩道を拡幅するとともに休憩施設等も整備。
- 表参道から善光寺を視認するため大型道路標識も撤去。
- 歩車道フラット化により広いスペースが生まれイベントも活発化。



- 表参道（中央通り）整備の概要
- 整備方針
 - ・広い歩行者空間の確保
 - ・通過交通の抑制・道路の柔軟な活用
 - 整備内容
 - ・舗装の石畳化
 - ・歩道拡幅（片側4.5～6m）
 - ・歩車道のフラット化／分離施設設置
 - ・大型道路標識撤去 等



〈灯笼の復元〉

- ・表参道の整備にあわせ、まちづくり団体が寄付を募り、かつて存在した灯笼を48基復元。
- ・団体が道路占用手続きを行って設置した上で、市に寄贈。
- ・良好なまちなみを形成している。



表参道で行われる善光寺花回廊

表参道周辺における景観整備

- 善光寺表参道周辺の法然通りや仁王門通りにおいても、無電柱化・美装化を実施。



法然通り



仁王門通り

建造物の外観修景

- 善光寺周辺の歴史的景観を再生するため、建造物の修景に要する費用を市が助成。（助成実績 44件）

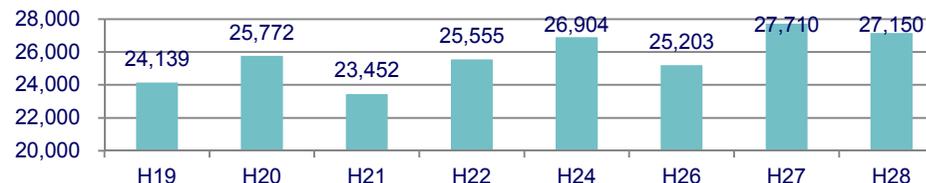


【助成概要】

- 補助率 2/3
- 限度額
 - ・主屋、門、塀：300万円
 - ・工作物：200万円
 - ・設計：30万円

施策の効果

善光寺仁王門前の一日当たりの歩行者・自転車通行量（人）





21. 岐阜県中津川市

旧中津川宿における官民学協働の景観まちづくり [岐阜県中津川市]

- かつて中山道の宿場町である旧中津川宿には、屋根の上には「うだつ」と呼ばれる防火と装飾を兼ねた袖壁が見られ、まちの中心を走る中山道は町角で直角に曲がる「枡形」が残り、現在でも往時のまちなみの面影をよく残している。
- このような特徴的な景観を官民学一体で保全・創出することにより住民のまちへの愛着が深まり景観への意識も高まっている。



整備前



整備後

電線地中化・建築物の修景による歴史的まちなみの形成/石張り歩道設置による歩車分離/案内看板設置による観光支援 等を一体的に整備

魅力・課題の発見、調査、研究

■ワークショップ



■先進地視察



まちづくり方針等の検討にあたり、行政、住民に加え、大学が研究及び調査の専門家として協力。

整備内容の検討、提案

■整備検討部会



調査結果を元に市や業者も交えて具体的な案を検討。

補助金を利用した修景

建物所有者による修景活動により、一体的なまちなみを整備。（補助率1/2、上限150万）



（補助実績：165件）
（H19～29末まで）

公共施設の空間整備（H22-H27）

■電線地中化



「枡形」において実施。歴史的まちなみの価値を高める。

■広場と親水空間



イベント開催可能な広場やトイレを設置。井戸は子供の遊び場に。

■街路灯



街路灯を歩道や各戸へ設置。夜間も美しく安全な景観に。

施策の効果

住民のまちへの愛着がより深まり
景観意識も高まっている



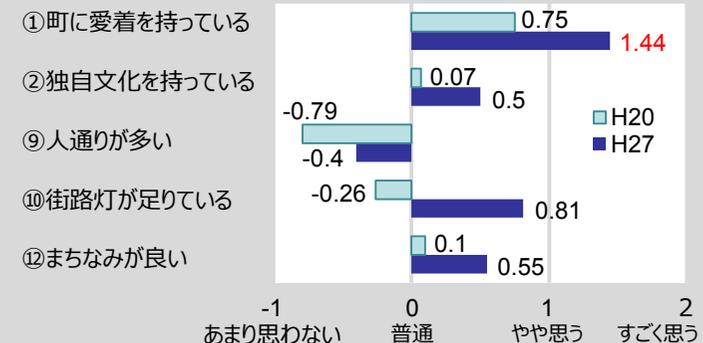
【アンケート結果概要】

- アンケートを比べると、地元への愛着、独自文化への誇り、まちなみの景観などのポイント数が大きく増加している。
- まちなみ整備が完成したことにより、住民の中で「きれいになったまちで色々なことをしてみたい」といった気風も生まれている。

【事業完了後のまちなみを利用したイベント】

- 宵祭り（夏祭り） ●ぎおんば（伝統芸能）
- 六斎市（まちなか市）
- 外国人訪問客をおもてなしするための外国語講座
- 空き家対策検討ワークショップ

景観評価アンケート（抜粋） <H20・H27比較>





22. 静岡県三島市



水と緑と人が輝く三島の景観づくり [静岡県三島市]

- 三島は東西に東海道、北に佐野街道、南に下田街道が通る四辻の町で、古くから人々の往来が盛んであり、市内中心部には富士山の湧水を象徴する源兵衛川^{げんべえがわ}、蓮沼川^{はすぬまがわ}、桜川などのせせらぎが巡り、水辺には緑がひろがるなど自然も豊かな地域である。
- 街なかでありながら豊かな自然景観を持つ地域の特性を活かした景観づくりにより、観光交流客数が増加している。

市民と協働による源兵衛川の再生

- 家庭雑排水の垂れ流しやゴミの放置により環境が悪化した源兵衛川を、平成8年から市民・NPO・行政・企業が協働して再生。
- 全長1.5kmの河川の上流において、川の中に自然石によるプロムナードを整備。市街地を縦断する回遊ルートとしても有効活用している。
- 他の小河川沿いにもプロムナード整備を行い、河川の遊歩道ネットワークを創出。



街なかであって豊かな自然が感じられる源兵衛川

アーケード撤去と水と緑のネットワークの創出

- 店舗とアーケードを撤去し、隣接する白滝公園と一体として広場整備を行うことで三島駅に続く県道沿いに緑の景観を創出。
- あわせて、富士山の伏流水が湧き出る親水公園も整備し、国の天然記念物・名勝楽寿園や三嶋大社を結ぶ水と緑のネットワークを創出。



三嶋大社の門前通りにおける歩行者主役の道づくり

- 三嶋大社の門前通りの車道を一方通行とし、歩道を拡幅
- 電線類地中化等により開放感のある歩行空間に整備。
- 舗装は石張り自然色舗装。
- ハンプ設置による歩行者の安全性を確保。



施策の効果



豊川市の表参道
なつかしい青春商店街

23. 愛知県豊川市



豊川稲荷商店街における産・官・学による昭和の賑わいの復活 [愛知県豊川市]

○ 豊川稲荷の門前町は、江戸時代頃から豊川稲荷への参拝客の増加に合わせて旅籠や食事処等が立地することで風格あるまちなみが形成されたが、商店街は昭和30年代をピークに活気が失われつつあった。このような状況の中、点在して残る当時の建物を活かし、商店街や大学、行政が一体となってファサード整備やイベント開催することにより観光客が増加している。

産・学・官の協働によるファサード整備

- 店舗ファサードの景観整備基準は、商店街が栄えていた昭和30年頃の活気を取り戻すべく商店街、大学及び行政が協働し、2件の建物をモデル的に外観修景し、歩行者の目線や通行量の変化等の効果を実証した上で、策定。
- 個々の建物を整備する際には、地元店主や大学教授等で構成する景観協議会に一件ずつ諮ることで、高い実効性を確保。
- ファサード整備の費用の一部は、市が補助。(補助率1/2、上限150万円)



若手店主らが中心となったソフト事業のまちづくり

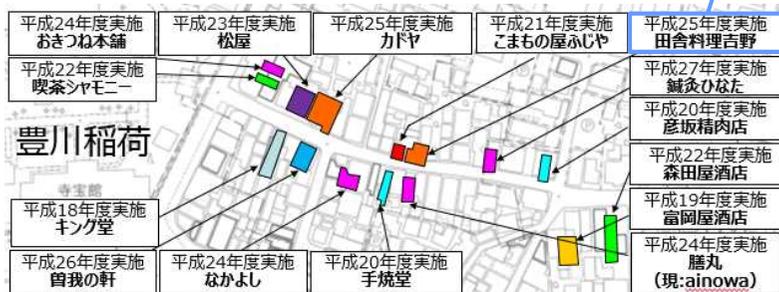
- 商店街の衰退に歯止めをかけるため、若手店主らが中心となり「ちょっとレトロな異空間」をコンセプトとして「いなり楽市」を開始。
- 豊川稲荷界隈の商店街に残る昭和の古き良きまちなみを活かし、地域を活性化。



ちんどんや

各商店が店頭で商品を陳列する元気軒下市、朝取り野菜等を販売する新鮮青物市とともに「ちんどんや」による街廻りなどを実施。月一回程度行われ、既に100回以上開催されている。

いなり楽市の様子



実施箇所 総延長約211mの表参道で15店舗実施。(平成28年時点)

施策の効果

豊川稲荷観光入込客数(万人)





24. 三重県伊勢市

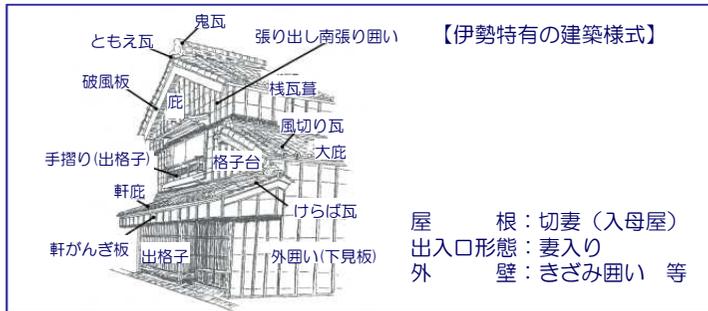


伝統を守り、新たにつくる民間主体のまちなみ形成 [三重県伊勢市]

- 内宮の宇治橋から五十鈴川に沿って続く800メートルほどの通りが参宮街道であるおはらい町は、明治期以降に建てられた建物が残り、今でも門前町の面影が色濃く残っている。また、“神様のお住まいと同じ平入りでは恐れ多い”という考えから、多くの建造物が妻の部分に玄関を設けた「妻入り」となっており、特徴的なまちなみを形成している。
- このようなまちなみに対して住民、行政、企業それぞれの保全・整備活動が一体的に行われ、観光客数が増加している。

伝統的建築物の保全・再生【住民】

- 伝統的な建築物の保全・再生のため、伊勢特有の建築様式に基づく整備基準を定め、当該基準に適合する建築物の修繕や建築に対し市が低金利で資金を貸付。（事業期間：H2～21、貸付実績15件）



事業実施後のまちなみ

おはらい町通りの整備【行政】

- 第61回式年遷宮(H5)に向け、おはらい町通りの空間を一体的に整備し、歴史的景観を創出するとともに、参拝客の観光利便性を向上。



〔整備内容：無電柱化、石畳による舗装美化等〕

おかげ横丁のまちなみ整備【企業】

- 地元の老舗企業によりお蔭参りで賑わった頃のまちなみをテーマとする施設を面的に整備。



おかげ横丁のまちなみ

約4000坪の敷地内に、江戸から明治期にかけての伊勢路の代表的な建築物を移築・再現。
 ※平成5年完成



おかげ座「神話の館」

おかげ横丁で唯一の有料施設。日本神話のあらましを紹介する映像及び和紙人形を展示。

施策の効果

